

第 101 回 全国健康保険協会千葉支部評議会の概要報告

開 催 日	平成 30 年 9 月 21 日 金曜日 15:30～ 17:00
開 催 場 所	日本生命千葉ビル 4 階会議室
出席者	飯田評議員、小賀野評議員、鈴木評議員、高原評議員、松本評議員、山口評議員（五十音順）
議 題	1. 関東甲信越ブロック評議会の報告について 2. 平成 30 年度上期のジェネリック医薬品使用促進の取組状況について 3. 協会けんぽ千葉支部における健康づくりの取組 4. その他
議 事 概 要 (主な意見等)	

開会挨拶

* 本日は大変お忙しい中、千葉支部評議会にご出席いただきありがとうございます。今回の評議会は上期の区切りの時期であり、協会発足から丁度 10 年経過となります。協会設立当初の 21 年度決算では 5,000 億円を超える単年度赤字、累積では 3,000 億円を超える赤字となる等、設立当初は財政にかかる課題が多く、評議員の皆様にも多くのご協力をいただきました。昨今では、財政状況については少しずつ解消されてきたこともあり、評議会でも戦略的保険者機能の発揮に向けたデータヘルス計画や健康づくりの取組等を中心に議論を実施することができるようになりました。本日は、7 月に開催されたブロック評議会で小賀野議長にお話しいただいた特定保健指導の外部委託強化にかかる取組のほか、ジェネリック医薬品使用促進に向けた取組、健康づくりの取組について報告させていただきます。評議員の皆様からの忌憚のないご意見、アドバイス等をいただきたく存じますので、よろしくお願い申し上げます。

議事概要

1. 関東甲信越ブロック評議会の報告について

■資料 1：関東甲信越ブロック評議会の報告について

《主な意見・質問等》

特になし

2. 平成 30 年度上期のジェネリック医薬品使用促進の取組状況について

■資料 2：平成 30 年度上期の取組について

《主な意見・質問等》

◆ジェネリック医薬品使用割合通知を送付した 2,241 薬局は県内の何%程度なのか、またジェネリック医薬品にかかる意識等のアンケートは同封しているかを伺いたい。

《被保険者代表》

⇒千葉県全体の薬局数は 2,374 件であり、2,241 件は約 94.4%でございます。また、今回は情報提供という形で送付していることから、アンケートについては同封していません。

◆他県ではジェネリック医薬品使用割合通知等の取組を行っているのか。《事業主代表》

⇒千葉支部以外でも、同様に行っています。

◆電車での中吊り広告はどれくらいの予算で実施したのかを伺いたい。《事業主代表》

⇒約 70 万円となります。

◆電車での中吊り広告は、公的機関等であれば割引があるのか。《被保険者代表》

⇒中吊り広告は、広告代理の委託業者を公募したうえで実施しています。

◆新薬はジェネリック医薬品とは別物であるのか。《事業主代表》

⇒新薬はいわゆる先発医薬品のことで、後発医薬品であるジェネリック医薬品とは異なります。

◆中吊り広告費用の 70 万円は掲載費や印刷費を含めた金額なのか。《学識経験者》

⇒全て込みで約 70 万円となっております。

3. 協会けんぽ千葉支部における健康づくりの取組

■資料 3：協会けんぽ千葉支部における健康づくりの取組

《主な意見・質問等》

◆千葉県との連携の進捗はどの程度のものか。《学識経験者》

⇒健診データの分析について話をいただく等、県との連携を深めており、今後表彰制度の創設等に繋げていきたいと考えております。

◆優良法人認定におけるメリットが感じにくいと思う。例えばの話であるが、優良法人に認定されれば法人事業税の減税等、事業所が魅力を感じるインセンティブを設けることができれば更に取組も活性化が図れるのではないか。また、このようなインセンティブを設けている支部はあるのか。《学識経験者》

⇒貴重なご意見ありがとうございます。優良法人認定に関するインセンティブについては、各方面との連携が必要であり簡単に進む話ではないと思いますが、参考にさせていただきます。また、お話にありましたようなインセンティブを設けている取組は聞いたことがございません。

◆健康経営は、ロゴマークの使用ができるようになるといった目に見える物的なインセンティブを一面として捉えることができる。一方で取組んでいること自体に意味があり、意欲的に実施していくことが企業の価値を高めることに繋がっている精神的な一面もある。様々な視点から捉えることができ、健康経営は一面だけではないことを意識して推進を図ってほしい。《学識経験者》

4. その他

■資料：平成 29 年度事業報告書 等

◆平成 30 年度末の準備金についてはどのような見込みか。《事業主代表》

⇒9月に開催された運営委員会の資料によると、平成 30 年度末の準備金は 2 兆 7,700 億円になる見込みとなっています。平成 29 年度末の 2 兆 2,000 億円から約 5,000 億円程度の増加となる見込みになりますが、医療費の伸びが賃金の伸びを上回るという赤字構造は変わっていないため、今後の収支は赤字になっていくことが想定されます。賃金の上昇率等を複数パターンに分けて試算していますが、料率 10%据え置き、賃金上昇率が 0%の場合は、2021 年から収支が赤字になる見通しでございます。

◆現状では、協会けんぽの財政について決して安心できるものではないと認識している。今後の対応としてどのように考えているか伺いたい。《事業主代表》

⇒協会けんぽにできることとして、ジェネリック医薬品の使用促進や健康経営の取組等、今後の医療費適正化に向けた事業を、より多くの事業所様、加入者様に周知し取組んでいただくことが極めて重要と考えています。そのためには、評議員の皆様、加入者の皆様のご助言を協会の事業運営に活かしてまいりたいと思います。

特 記 事 項

・第 102 回千葉支部評議会開催予定 平成 30 年 10 月 17 日（水） 15：30～